

日本国憲法第 13 条

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 から (ただし、下線は脇田による)

日本国憲法

第 13 条 「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」

GHQ 草案

- ・ (日本語) 第十二条 日本国ノ封建制度ハ終止スヘシ一切ノ日本人ハ其ノ人類タルコトニ依リ 個人トシテ尊敬セラルヘシ一般ノ福祉ノ限度内ニ於テ生命、自由及幸福探求ニ対スル其ノ権利ハ一切ノ法律及一切ノ政治的行為ノ至上考慮タルヘシ
- ・ (英語) Article XII. The feudal system of Japan shall cease. All Japanese by virtue of their humanity shall be respected as individuals. Their right to life, liberty and the pursuit of happiness within the limits of the general welfare shall be the supreme consideration of all law and of all governmental action.

「個人 (individual)」あるいは「個人の尊厳」とは何か? (その歴史的な意義は?) = 脇田私見

- (1) . 日本国憲法の「基本的人権の尊重」思想の根幹をなす、「個人 (individual 分けることのできない=in-否定+dividere 分ける+-al)」あるいは「個人の尊厳」の意味をきちんと読み解くことが必須であるはず。
- (2) . そのヒントの 1 つは、上記「GHQ 草案」にある「The feudal system of Japan shall cease. All Japanese by virtue of their humanity shall be respected as individuals.」(「日本国ノ封建制度ハ終止スヘシ一切ノ日本人ハ其ノ人類タルコトニ依リ 個人トシテ尊敬セラルヘシ」)にある。
- (3) . フランス大革命においても、「封建制度の廃止」とほぼ同時に『フランス人権宣言(人間と市民の権利宣言)』が発せられた。封建制度を打破するための理念として「個人」という概念が創出されたものと考えうる。
- (4) . 「人種、信条、性別、社会的身分又は門地」のみならず、封建制度は、家族・親族関係、地縁・血縁関係、等々の様々な「社会的属性」による「差別」を法制度の根幹と位置付けるものであり、この封建制度を根本的に打破するための思想的な武器(道具)として、一切の「社会的属性」を剥ぎ取った(divide した)抽象的な人間存在として「個人 (individual)」あるいは「個人の尊厳」が想定(発見)されたものと言える。
- (5) . この「個人の尊厳」において、すべての人は「自由」かつ「平等」であり、「個人の尊厳」は「人権(人間としての権利)」の根源をなすものとして、様々な「社会的属性」による「差別」が今日までに打破され、歴史的に克服されてきたものと言える(まだまだ途上だが)。
- (6) . しかしながら、「個人 (individual)」あるいは「個人の尊厳」だけの抽象的な人間は、現実には存在していない。「個人 (individual)」の発見の人類文化への歴史的意義を踏まえた上で、「個人の尊厳」を根底に据えた豊かな社会的諸関係の構築こそが今後の人類文化のめざすべき方向性ではないだろうか。